

彦根市図書館整備基本計画(抜粋)

平成29年3月

彦根市教育委員会

目 次

はじめに

第1章 計画の策定にあたって

- 1 計画策定の目的 2
- 2 計画策定の経緯 2

第2章 彦根市立図書館の現状と課題

- 1 創設から現在に至るまで 3
- 2 彦根市立図書館の現状 4
 - (1) 図書館の建物の概要 4
 - (2) 図書蔵書数 5
 - (3) 歴史・郷土資料 6
 - (4) 年度別入館者数・利用者数・貸出冊数等 6
 - (5) 県内図書館の利用状況 8
- 3 彦根市立図書館の抱える課題 9
 - (1) 施設・設備 9
 - (2) 職員体制 9
 - (3) 図書・資料 9
 - (4) 市全域サービス 10
 - (5) 湖東圏域内における拠点図書館 11

第3章 彦根市立図書館が目指す姿

- 1 基本理念 11
- 2 基本方針（コンセプト） 12
- 3 基本方針の実現に向けた取組 12

第4章 図書館整備に向けた考え方

- 1 図書館整備の考え方について 18
- 2 中央館について 18
- 3 北部館について 24
- 4 南部館について 25
- 5 （仮称）新市民体育センターサービスポイントについて 25
- 6 移動図書館車（動く図書館たちばな号）について 25
- 7 図書館と各関係機関・施設・団体との連携・協力体制について 25

はじめに

彦根市の図書館は、市民の熱い要望によって、大正 5 年（1916 年）4 月 25 日に文部大臣から図書館設置の認可が下り、「彦根町立彦根図書館」が開館しました。滋賀県内の図書館では歴史が古く、戦前には 3 館しかありませんでした。

今は、幅広い世代に利用していただき、気軽に本を手にとって読める時代になりましたが、自由に本に親しむことができない時代もありました。その時々図書館は、様々な読書活動を通して、本と接する機会を提供してきました。今日まで「暮らしの中に役立つ図書館」づくりに努め、市民の皆様とともに歩み、平成 28 年（2016 年）に創設 100 周年を迎えました。

これからも市民が必要とする資料の提供に力を入れた「市民のための図書館」として、期待に応えていかなければなりません。

このため、新たな図書館の出発（たびだち）の指針を定めてまいります。

第 1 章 計画の策定にあたって

1 計画策定の目的

現在の図書館は、昭和 54 年（1979 年）11 月に開館しました。

昭和 53 年（1978 年）に策定の「彦根市立図書館建築計画」の中では、現図書館を建築するだけでなく、複数の地域館と市全域サービス網計画の必要性についても提言されており、このことは長年にわたる図書館の課題でもありました。

それから 37 年が経過し、収蔵スペースの限界、施設設備の老朽化に併せ、近年の利用者ニーズへの的確な対応、また市全域への均質なサービスの提供などの面においても、さまざまな課題が生じています。

今日まで、図書館は時代に応じた情報・サービスを提供し、日常生活や文化活動などを支援していくことで、「風格と魅力のある都市」の創造に向けて努めてきたところです。これからも利用者ニーズを反映した図書館運営に努めるとともに、市全域にわたる図書館サービスの提供、そして、所蔵している貴重な歴史・郷土資料の保存と活用に向けて、「彦根市図書館整備基本計画」を策定します。

2 計画策定の経緯

平成 22 年（2010 年）3 月に彦根市・愛荘町・豊郷町・甲良町および多賀町の 1 市 4 町による「湖東定住自立圏共生ビジョン」が策定され、拠点図書館の整備と圏域内図書館の連携に取り組むことになりました。

そして、平成 25 年（2013 年）3 月に湖東圏域内図書館整備等検討委員会において「湖東圏域内における望ましい公共図書館整備のあり方について（報告書）」が策定されました。この報告書は、将来を展望した図書館網の整備と圏域内各図書館の連携を探り、新たな図書館の建設および運営に生かせるようにまとめられています。この報告書を基に、平成 27 年度に設置した彦根市図書館協議会で意見をいただき、「彦根市図書館整備基本計画」の策定に向けて検討を進めてきました。

第4章 図書館整備に向けた考え方

～ 魅力ある図書館にするために ～

今日まで、市民の皆様に親しまれる図書館として、第2章にあるように戦前からの読書会活動や巡回文庫活動などを通して実績を残してきました。しかし、市域の北部に1館あるのみで、全域的な図書館サービスが見直されないまま、現在に至っています。図書館から遠方に住まわれている方や公共交通機関を使って来られない方に対して、昭和40年から半世紀にわたって「動く図書館たちばな号」の巡回により、最寄りの場所で貸出や返却サービスを行ってきました。さらに、地域子ども文庫・地域親子文庫活動は、より身近な本棚として利用されてきました。しかし、従来から課題とされてきました図書館が身近に利用できる環境の解決には至っていません。

ここに、図書館の全域サービスを見越した整備のあり方を示し、新たなサービス網を構築していきます。

1 図書館整備の考え方について

彦根市の図書館サービスの拠点となる「中央館」を市の中央部に整備し、それぞれの特性を生かした「地域館」を置くものとします。地域館は、現図書館を「北部館」とし、稲枝地域に「南部館」を整備します。そして、南彦根駅西側に整備が計画されている（仮称）新市民体育センター内に「サービスポイント^{*}」を設置します。また、動く図書館たちばな号の巡回により、市内全域を網羅した図書館システムを構築していきます。

彦根市および愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町間で「定住自立圏構想」に基づく連携を図る中で、広域利用と独自のネットワークを整備します。

各館の開架規模と利用圏の範囲を考慮し、市内の人口分布や地理・地形的特性、交通アクセスなどを加味した適切な図書館施設の配置が必要です。

2 中央館について

（1）役割

中央館は、地域館（北部館・南部館）およびサービスポイントを含めたすべてを統括し、一体的なサービスの提供と管理運営の中心的な役割を果たします。

また、事業の企画や庶務および全館の管理運営を、中央館が一括して行うことで、事務の効率化を図ります。

そして、彦根市立図書館の中央館としての役割に併せ、湖東定住自立圏域内1市4町の拠点となる図書館としての役割を果たすこととし、できるだけ早い時期に整備できるよう努めていきます。

利用者が自由に本を選べる新鮮かつ幅広いジャンルの図書を並べ、暮らしの中に役立つ魅力ある蔵書構成に努めます。さらに、閲覧・貸出やレファレンスサービスなどの図書館サービスの充実を図り、郷土関連資料や行政資料の優先的な収集・保存にも力を入れていきます。

定期的に中央館から地域館およびサービスポイントに配本車が図書を搬送し、本の受渡し

を行います。

子ども読書活動推進計画（第2次計画）では、図書館は地域における子どもの読書活動を推進する中核的な役割を担う場所として期待が寄せられています。中央館は、各地域館の実情に合わせ、各館が行う子どもの読書活動の推進に向けた取組に協力します。

学校などの教育施設や子育て関係機関と連携を図り、子どもが読書に親しむ環境づくりに努めます。

読書ボランティア団体と共に、各種の行事を実施することで、市民との交流の場を提供していきます。

時節の話題、学校や地域と連携した学習・研究成果など、市民興味や関心のある話題を取り上げ、図書館から情報を発信します。

（2）規模

ゆとりのある開架スペース、将来に余裕をもたせた書庫、会議室や事務室など必要な面積を積算すると延床面積は、4,300 m²程度が望ましいと考えます。敷地面積は、利用者のための駐車場を含めると9,000 m²程度は必要と考えます。

また、幅広い年齢層の利用がある施設として、今の入館者数を上回る来館者などが訪れると予測され、緑あふれる憩いの場になるだけの用地の確保が必要です。

（3）整備場所

中央館は、市の中央部にあって、JR沿線の駅に近く、道路網が整備されたところが望ましいと考えます。

立地や用地取得の観点で判断して、河瀬学区、亀山学区が、中央館の建設が実現できる条件の揃った場所となるため望ましいと考えます。

（4）蔵書計画

① 開架

現在と同等の開架冊数15万冊、100冊/m²とし、ゆとりをもったスペースを確保します。

書架間の通路を広めに取り、一般開架棚5段、児童開架棚4段とし、利用者の背後を他の利用者や車椅子の方が、楽に通れる間隔を取ります。

市民の多様な読書要求に応えるため、様々なジャンルの図書を揃え、新鮮かつ豊富な蔵書と資料構成により魅力ある書架づくりに努め、利用者の満足度を上げる取組を行います。

さらに、障害者や高齢者向け「大活字本」や「朗読CD」・「デージー図書」などの視聴覚資料の充実を図ります。

図書・雑誌・新聞・視聴覚資料・郷土資料や辞書類などを形態別に分けて配列します。また、郷土の話題や最新の出来事などをテーマにした特設コーナーやヤングアダルト層を対象にしたコーナーを設けます。児童室には、「おはなしの部屋」や「特設コーナー」などを設置し、広いスペースを確保します。

^{*1}ユニバーサルデザインの導入・施設の^{*2}バリアフリー化により、誰もが使いやすく、人にやさしい施設整備を行います。また、館内の案内・誘導などの表示板を見やすく、わかりやすいものとし、目的場所への誘導など必要な情報が容易に得られる整備を行います。

② 書庫

中央館の書庫の収容能力は、将来に余裕をもたせた 70 万冊を確保することが望ましいと考えます。多くの貴重な郷土・行政資料を納めるため、適正な管理と保管のできる作業場所を確保します。

収蔵力の高い集密書架^{*3}を多く配置し、固定書架と併せて使用し、棚の高さを調整します。

書庫の大きさは、約 500 冊/㎡程度を目安とします。今後の蔵書計画は、中央館だけでなく北部館および南部館と併せて調整していきます。

資料の保存と提供を重点方針として継承しつつ、資料除籍基準をもとにした適正な書庫の構築を目指します。

(5) 駐車・駐輪場

現在の駐車場は、金亀公園を利用される方と共同で使用しています。図書館の利用が最も多い日は、土・日曜日の午後の時間帯で、1 時間当たり約 150 人の方が来館されます。家族連れの利用者が多く、車に同乗して来られます。来館者を増やし、長く滞在していただけるためには、現在と同規模またはそれ以上の駐車場の確保が必要です。

1 台当たり必要とされる駐車スペースは 25 ㎡とされています。今の駐車区画 150 台を想定し、緑地帯のスペースを含めると敷地面積 4,000 ㎡程度の確保が必要と考えます。

また、駐輪場については、30 台から 50 台程度の広さの確保が必要になります。

(6) 閲覧席

図書館は、閉架式から開架式^{*4}へと移り変わり、さらに、利用者は本を借りるだけでなく、滞在して本や雑誌・新聞などを読み、くつろぎの時間を過ごす場所として位置づけるなど図書館利用への嗜好が変わってきました。

市民の生涯学習の要求に応じていくために、新聞や雑誌等をゆったりと読める広いスペースを確保します。また、閲覧用の机と椅子がセットになった^{*5}「キャレルデスク」などを置きます。

また、読書される方と調査・研究に使用される方では、利用の仕方に違いがあるため、閲覧場所を分けた配慮を考えていきます。

(7) 学習室

学習室を整備します。その管理・運営については、今後検討していきます。

(8) 休憩コーナー

現在、開架室内での飲食は禁止されています。しかし、長時間にわたり図書館に滞在される方が増えています。休憩コーナーは、開架室から離れた場所に設け、来館者が気軽に立ち寄り、給水などのほか、グループで歓談したり、子どもを遊ばせたりできる場所を確保します。

3 北部館について

(1) 役割

北部館として図書の貸出・返却の他に、中央館と他の地域館とを繋ぐ図書館システムの構築を図ります。

文化の香り高い彦根らしさを持った図書館として、保管してきた古文書や貴重な歴史・郷土資料、行政資料、舟橋聖一記念文庫資料などの特別コレクションなどを紹介していくとともに、その情報を広く内外に発信し、歴史・郷土資料館的機能を併せ持った図書館サービスの提供に努めます。

(2) 規模

現有施設を利用します。

(3) 整備場所

耐震診断や施設・設備の改修を行いながら、現図書館を引き続き使用することとします。

(4) 蔵書計画

① 開架

基本となる図書（一般・児童）、雑誌、新聞等を整備し、親しみのある本棚を目指します。現図書館（開架面積 800 m²）を利用し、開架冊数は 8 万冊が望ましいと考えます。

② 書庫

書庫には、4 万冊の図書を置き、12 万冊の蔵書が望ましいと考えます。特に、図書館創設時からの貴重資料・彦根藩関係資料などの適正な管理スペースを確保していきます。

(5) 歴史・郷土資料の管理

開館以来、旧彦根藩領に関する多くの貴重な資料を収集・保存してきました。これら資料を、後世にまで伝え継ぐことを使命とし、建物を含む資料の安全と管理の取組を強化します。

所蔵資料を使った定期的な企画展を開催し、彦根市立図書館が所蔵する文化資源を紹介していきます。

(6) 舟橋聖一記念文庫

資料の保存や利用者への閲覧等の調査・相談業務に取り組みます。また、生原稿などの特殊資料等の適正な管理スペースを確保していきます。併せて、所蔵資料を使った企画展を実施し、舟橋文学や近代文学資料の紹介に力を注いでいきます。

4 南部館について

(1) 役割

貸出と返却の他に、基本となる図書・雑誌・新聞を配架し、親しみのある地域のニーズを反映した棚づくりを目指します。

中央館と他の地域館を繋ぐ図書館システムを構築し、利用者の利便性の向上に努めます。

(2) 規模

開架面積は、500 m²程度とします。

(3) 整備場所

整備場所については、市の南部にあって、公共交通機関を使った利用ができ、幅広い年齢層からの利用が見込めるところにあって、一定の用地が確保できる場所を考えると、J R 稲枝駅西口周辺から公共施設の集積した稲枝支所周辺のエリアが望ましいと考えます。

(4) 蔵書計画

① 開架

開架冊数は5万冊程度が望ましいと考えます。各ジャンルの図書・雑誌・新聞等を整備し、貸出を基本とします。

② 書庫

保存を目的とした書庫は、設置しません。

5 (仮称) 新市民体育センターサービスポイントについて

(仮称) 新市民体育センター内に、中央館の支援による図書の貸出・返却のほか、図書の検索ができるサービスポイントを設置します。

6 移動図書館車 (動く図書館たちばな号) について

図書館の施設整備に併せて、現在巡回している52箇所のステーションの運営について見直します。

7 図書館と各関係機関・施設・団体との連携・協力体制について

中央館と地域館(北部館・南部館)をつなぐ図書館システムの構築と図書館を取り巻く関係機関・施設・団体と連携・協力し、地域を支える図書館の実現に向けた取組を進めます。